

外国人から日本についてよく聞かれる250の質問 (日常編パート1)

動画リンク: <https://youtu.be/UZSJ7FAkMs>

今回は「外国人から日本についてよく聞かれる250の質問 (日常編)」を学びながら、日本語を勉強しましょう。

この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」があります。

後半は少しだけ速く(+20%)なり、漢字に「ふりがな」はありません。

学習にお役立てください。

■私のこと

こんにちは、佐野圭介といます。30歳で東京で働く会社員です。大学時代には、留学生と交流するサークルに所属していたことがきっかけで、多くの外国人の友人ができました。彼らとの会話を通じて、日本の文化や日常生活がどのように見られているのかを知ることができ、私自身も「日本ってこんなに面白いんだ」と新たな発見をすることがたくさんありました。

その後、仕事で海外の取引先とやり取りをする機会が増えたことで、さらに「日本の魅力」や「不思議」を説明する場面が増え、改めて日本独自の文化やシステムに興味を持つようになりました。

今回は、外国人からよく寄せられる250の質問の中から「日常生活」に関する質問を取り上げます。このテーマについての質問は非常に多く寄せられており、動画は全3回のシリーズとしてお届けする予定です。今回お届けするのはその第1弾です。私たちが普段の生活の中で当たり前に行っていることや、気づかないうちに守っているルールが、海外の人たちには驚きや疑問として映ることがあります。こうした日常の「不思議」を掘り下げながら、日本の文化や価値観について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。少しでも新しい発見や、日本らしさを再認識するきっかけになればうれしいです。

■人気の待ち合わせ場所のハチ公って何？

ハチ公は、東京・渋谷駅の近くにある秋田犬の銅像で、日本でも特に有名な待ち合わせスポットの一つです。実在したハチ公という犬は、飼い主が亡くなった後も毎日同じ場所で主人の帰りを待ち続け、その忠誠心あふれるエピソードで広く知られるようになりました。この物語は多くの人の心を打ち、『忠犬ハチ公』として象徴的な存在になったのです。その後、ハチ公をしのんで作られた銅像が渋谷駅前に置かれ、今では多くの人々が待ち合わせに使う定番のスポットとなりました。

渋谷駅周辺は多くの路線が集まる大きな交通拠点で、人の行き来がとても激しい場所です。そんな中、駅前にあるハチ公像はわかりやすい目印であり、待ち合わせ場所として非常に便利です。また、海外からの観光客にとっても、日本らしい背景を持つ象徴的な像として人気があります。メディアやガイドブックで繰り返し紹介されることもあって、初めて訪れる人でも簡単に見つけることができるため、迷いにくいという利点もあります。

こうしてハチ公像は、地元の人から観光客まで幅広い人々に親しまれ、長い年月をかけて愛され続けています。私自身も、渋谷で友人と待ち合わせるときにはよくハチ公像を利用します。そのたびに、この忠犬の物語と、像が持つ温かみを感じるのです。

■コンビニのバラエティーに富んだ商品は一般的なの？

日本のコンビニは、本当に便利な存在です。弁当やおにぎり、スイーツなどの食料品から、日用品、雑誌、さらには公共料金の支払いまで、生活のあらゆるニーズをカバーしているところが素晴らしいと思います。私自身、仕事帰りに立ち寄ることが多いのですが、必要なものが一度でそろるので、忙しい日には特に助かっています。

さらに、各チェーンがオリジナル商品や季節限定商品を工夫して展開している点も、日本のコンビニならではの魅力です。たとえば、新商品のスイーツを試すのがちょっとした楽しみになっています。また、地域ごとの名産品が手に入るのも面白いです。以前、出張先で地元の特産品を使った限定おにぎりを見つけて感動したことがあります。

日本のコンビニは観光客にとっても魅力的な存在だと思います。外国人の友人に案内したとき、「こんなに便利な場所があるなんて信じられない！」と驚かれました。24時間営業で、手軽に食事が買えるだけでなく、品質も高いので、日本を訪れる人々にとっても欠かせないスポットだと感じます。こうした便利さや多彩な商品は、日本社会の生活インフラの一部になっています。私たちにとっては「当たり前」に思える存在ですが、その影響力や重要性を改めて考えると、本当にすごい仕組みだと思えます。

■日本のトイレがすごくハイテクなのはなぜ？

日本のトイレがこれほどハイテク化しているのは、本当に興味深いです。特に、ウォッシュレットや温水洗浄便座は、日本独特の文化を象徴するものだと思います。私も海外の取引先の方々を案内すると、必ずといっていいほどトイレの機能に驚かれます。「こんなに快適なトイレは初めてだ!」と言われることが多いですし、清潔さを重視する日本の文化が強く表れていると感じます。おもてなしの精神がトイレにも反映されているのが日本らしいところです。

たとえば、公共施設で「音姫」(擬音装置)が設置されているのを見ると、利用者が快適に感じられるように細かい配慮がされていることに気づかされます。こうした小さな工夫が、海外の方々から「日本はすごい!」と言われる理由の一つになっているのだと思います。それに、高層ビルや商業施設などで導入されている最新技術も素晴らしいです。節水しながらも静音性を保つ洗浄システムなど、環境への配慮も忘れないところに感心します。日本のトイレは、清潔志向やサービス精神が作り上げた『日本らしさ』そのものだと思います。私自身、こうしたトイレを日常的に利用していると、海外に行ったときにその違いを強く感じます。日本では、トイレも含めて生活の細部に至るまで快適さが追求されていることを、改めて実感します。

■日本ではなぜポケットティッシュが無料で配られているの？

日本でポケットティッシュが無料で配られているのは、広告宣伝のためです。ティッシュの中に小さな広告チラシを同封することで、実用的なアイテムを手にとってもらいながら、自然と広告を目にしてもらう仕組みになっています。

ポケットティッシュは小さくて持ち運びが便利なおうえ、実際に使う場面も多いので、受け取る人も抵抗なく手に取ります。駅前や繁華街でティッシュを配っている場面をよく見かけますが、人通りの多い場所で直接手渡することで、多くの人に広告を届けられるのは企業にとっても効果的です。

また、日本人は花粉症や風邪対策で日常的にティッシュを使う機会が多いので、もらったティッシュもすぐに使われて消費されます。私もポケットティッシュをもらうと、すぐに使うことが多いですし、実際に広告を目にすることも多いです。消費者にとっては助かる存在でありながら、広告主にとってもメリットがある、このバランスの良さが、ポケットティッシュ配布が長く続いている理由です。

■なぜ日本人は時間にうるさいの？

日本人が時間に厳しいとされる理由には、歴史的・社会的な背景がたくさんあると思います。たとえば、日本では電車やバスなどの公共交通機関が非常に正確に運行されています。このおかげで、多くの人が「時間通りに行動するのが当たり前」という意識を持つようになったのだと思います。私自身も、学生時代や会社で「遅刻は他人に迷惑をかける」と教えられ、それが自然と習慣になっています。こうした考え方は、日本特有の集団意識ともつながっているように感じます。

また、日本では「約束の時間を守ることが礼儀」とされています。この価値観は、幼い頃から家庭や学校で繰り返し教えられるため、遅刻に対して罪悪感や恥ずかしさを感じる人が多いのです。私もその一人で、約束の時間に遅れるときは、どうしても申し訳ない気持ちになります。

さらに、最近ではグローバル化が進み、外国の方々と関わる機会が増えたことも影響していると思います。時間を守るとは、信頼や評価に直結するビジネスマナーであり、おもてなしの環境でもあります。こうした背景があるからこそ、日本人は時間に対して厳しい姿勢を保ち続けているのだと思います。私自身、時間を守るとは他者との信頼関係を築く上でとても重要だと感じていますし、この文化的な特徴は日本の大きな魅力の一つでもあると思います。

■日本にはなぜゴミ箱がなくても街がキレイなの？

日本の街を歩いていると、ゴミ箱があまり見当たらないのに、道や公園がきれいに保たれているのは本当に印象的です。これにはいくつかの背景があります。まず、「自分のゴミは自分で持ち帰る」という意識が、多くの日本人の間で強く根付いていることが挙げられます。子どもの頃から学校や地域で清掃活動を経験しているので、「ゴミを散らかさない」というマナーが自然と身についている人が多いのだと思います。私自身も外で出たゴミは、かばんに入れて家に持ち帰る習慣があります。

また、日本では地域全体で公共の場所をきれいに保とうとする意識が高いのも特徴的です。地域住民が定期的に行う清掃活動や、ボランティアによるゴミ拾いの取り組みを目にすることも少なくありません。こうした自主的な努力に加えて、職員の方々がこまめに清掃を行ってくれているので、街が美しい状態を保っているのだと思います。

さらに、行政がゴミの分別収集や清掃活動を積極的に支援していることも大きな要因です。こうした仕組みや取り組みが組み合わさって、「ゴミ箱が少ないのにきれいな街」という日本特有の風景が生まれているのだと思います。

私も外国人の友人に日本の街のきれいさを褒められることがよくあります。そのたびに、こうした文化的な背景や社会全体の意識の高さを誇りに思います。

■日本の学校では生徒が掃除をするって本当？

日本の学校では、生徒自身が教室や廊下、トイレなどを掃除するのが一般的です。これには、「自分たちの使う場所は自分たちできれいにする」という考え方が根付いているからだと思います。私も学生時代、掃除の時間がありましたが、単にきれいにするだけではなく、共同作業の大切さや責任感を学ぶ機会だったと感じています。掃除を授業の一環として取り入れることで、道具を大切に扱う態度や、自分たちの環境を整える習慣が自然と身につきます。

たとえば、床の雑巾がけや黒板をきれいにする作業は一見地味ですが、その積み重ねが自立心や協力する姿勢を育てます。また、学年が上がるにつれて掃除の範囲が広がり、責任も増えていくので、そうした経験を通じて集団の一員としての役割も学ぶことができました。

さらに、日本の地域社会全体で「みんなで環境を整える」という意識が高いことも影響していると思います。学校での掃除はその入り口と言えるかもしれません。こうした取り組みは予算や人員の問題だけでなく、「人間形成に役立つ」という考え方が根強く支持されているからこそ、長い間続いてきたのだと思います。

日本の学校掃除の文化は、責任感や協力の精神を育む大切な仕組みだと改めて実感します。

■なぜゴミの分別のルールがこんなに細かいの？

日本でゴミの分別が細かい理由には、やはり環境保護や資源の有効活用といった大きな目的があります。たとえば、プラスチック、びん・かん、紙などを分けて回収することでリサイクルがしやすくなり、埋め立て処分の量を減らすことができます。これによって、持続可能な社会の実現に貢献しているというのは、すごく意義のある取り組みだと思います。さらに、自治体ごとにゴミの分別ルールが異なるのも、日本の特徴の一つです。地域によって処理施設の設備や地形的な条件が異なるため、それに応じた細かい分別が必要とされることが多いです。私も引っ越しをした際に、最初は地域ごとのルールに慣れるのが少し大変でしたが、慣れてくるとそれが当たり前になりました。日本では、学校や家庭で「自分のゴミは自分で責任をもって処理する」という教育が幼い頃から行われていることも、分別がしっかりと根付いている理由の一つだと思います。こうした教育のおかげで、多くの方がルールを守り、結果として家庭から出る廃棄物のリサイクル率も高まっています。もちろん、細かい分別は最初は少し面倒に感じることもありますが、それが環境への負担を減らし、清潔で住みやすい街づくりに繋がっていると思うと、やる意義を感じます。こうした取り組みが、日本の街のきれいさや環境保全に大きく役立っていると実感しています。

■日本ではほとんど何でも自動販売機で買うことができるってほんと？

日本の自動販売機は、多彩な商品を扱っています。飲み物だけでなく、アイスクリームやカップ麺、新聞、さらには生卵やコーヒー豆など、見るだけでも面白い自販機がたくさんあります。ただ、「ほとんど何でも買える」というのは少し誇張で、実際のところは飲料やスナック類が中心だと思えます。それでも、こうした自販機が日本中に広がっている理由は、やはり治安の良さが大きいです。外に機械を設置しても壊されたり盗まれたりするリスクが低いのは、日本ならではの感覚です。

また、自販機が街の至る所に設置されているおかげで、利用者にとってとても便利です。観光地を訪れる外国人の方々から「どこに行っても自販機がある」と驚かれるのもよくわかりますし、今では日本独特の景観の一部になっていると言えるでしょう。

さらに、自販機は無人で商品を販売するため、人件費を抑えられるという点も大きなメリットです。都市部のように土地代が高い場所でも、省スペースで設置できるのは、経営者にとって魅力的だと思います。一方で、ユニークな商品を扱う自販機は確かに話題性がありますが、全国どこでも見られるわけではなく、特定の地域や観光地に限定されていることが多いのが実情です。

総じて、日本の自動販売機は「幅広い商品を買える」というイメージを持たれがちですが、実際には飲料やスナック類が主力です。それでも、地域や店舗が工夫を凝らして特色ある商品を提供している姿勢には、日本らしい創意工夫を感じます。こうした自販機文化は、私たちの日常に便利さをもたらすと同時に、日本のユニークさを象徴する存在だと思えます。

■日本では水道水がそのまま飲めるのはなぜ？

日本の水道水がそのまま飲めるのは、水質管理の厳しい基準と高度な浄水技術が大きく関係しています。川や地下水などの原水を取り込んだ後、ろ過や沈殿、消毒といった工程を経て安全性が確保されているのはもちろんのこと、自治体や水道局が定期的に水質検査を行い、その結果を公開している点も、安心して利用できる理由の一つだと感じます。

また、日本の都市部では上下水道の整備が進んでおり、大規模な浄水場が活躍しています。活性炭やオゾン処理といった先進的な技術を使うことで、水のおいしさや細菌をしっかりと除去していると聞くと、日本の技術力の高さを改めて実感します。最近はボトルウォーターも普及していますが、水道水そのものの安全性やおいしさは、専門家からも高い評価を受けているそうです。

さらに、日本が自然豊かで、浄水に適した水源を確保しやすい環境であることも大きな要因です。山が多く、清らかな川が多いことで、質の良い原水を得ることができるのは、日本ならではの強みだと思います。それに加えて、水道料金が公共サービスとして抑えられているため、ほとんどの家庭で手軽に安全な水を利用できるのもありがたい点です。

こうした環境や技術、制度がうまく組み合わせることで、日本では蛇口をひねるだけで高品質な水が手に入るという、当たり前のように実はすごい仕組みが実現しているのだと思います。外国の方からも『日本では水道水がそのまま飲めるなんて驚きだ』と言われることが多いですが、私たちもそのありがたさを改めて実感すべきだと思います。

■なぜアルコールをどこでも飲むことができるの？

公共の場所での飲酒が法律で厳しく規制されていないというのは、他国と比べると特徴的です。道端や公園で飲むこと自体が違法ではないため、花見や夏祭りといった屋外イベントでお酒を楽しむ文化が昔から親しまれてきたのだと思います。こうした伝統があることで、社会全体でも「路上飲酒=違反」という意識はあまり強くないように感じます。

また、日本の治安の良さも大きな要因です。夜遅くまで営業している居酒屋やコンビニでお酒を買った後、外で飲んでも大きなトラブルに発展しにくい環境が整っているのは、日本ならではの要因だと思います。とはいえ、公共の場での飲酒がすべて自由というわけではありません。

たとえば、公共交通機関の車内や学校、病院などでは、条例や規約で飲酒が禁止されている場合もありますし、周囲に迷惑をかけるような行為は当然問題になります。また、未成年の飲酒は法律で厳しく禁止されているのは言うまでもありません。要するに、日本では「規制が少ない」という面がある一方で、マナーやルール、節度を守ることが非常に重要です。地域や施設によっては飲酒を制限している場所もありますし、一律に「どこでも飲める」とは言い切れません。ただ、他国と比べると規制が少なく、自由に感じられる点は確かだと思います。こうした背景を理解しながら、適切なマナーを守ってお酒を楽しむことが大切です。

■チップの習慣がないのに、レストランが良いサービスを提供するのはなぜ？

日本の飲食店でチップがないのに接客が丁寧だと感じるのは、「おもてなし」の文化が根付いているからだだと思います。日本では、サービスを単なる仕事ではなく、「お客様に喜んでもらうこと」そのものをやりがいと感じる価値観が広く浸透しています。これは、幼い頃から「人に迷惑をかけない」とか「相手の気持ちを考える」といった教育を受けて育つことが影響しているのだと思います。

また、日本の飲食店ではサービス料が価格に含まれている場合もあり、スタッフは安定した収入を得られる環境が整っています。それに加えて、現在ではSNSや口コミサイトでお店の評判がすぐに広まる時代です。一度の接客が店の評価に直結することを考えると、チップをもらわなくても丁寧なサービスを提供することが、結果的に店の利益や信頼につながるといえる考え方が根付いているのだと思います。

さらに、日本では接客に関する研修やマニュアルがしっかりしていることも大きなポイントです。新人スタッフでも一定の接客クオリティを保てるように、企業が教育に力を入れていることが感じられます。私も飲食店で丁寧な接客を受けるたびに、「こうしたサービスの高さが日本の魅力の一つだな」と実感します。チップの有無に関係なく、相手を大切にするとする文化的背景が、丁寧なサービスを支えているのです。

■飲み会のとき、相手の飲み物を注文するのはなぜ？

日本の飲み会では、自分の飲み物だけでなく、相手のグラスが空いていないか気を配る姿勢がよく見られます。これは単なる礼儀というだけでなく、コミュニケーションを円滑に進めるための大切な行動だと思います。特に上司や先輩、取引先の方と一緒にいる場合、相手が遠慮して飲み物を注文しないこともあるので、「何を飲まれますか？」と一声かけるだけで、場の雰囲気や和らぐことがあります。こうした気配りには、「周りの人が楽しんでいるかどうか」を常に意識する日本独特の文化が表れていると感じます。飲み会は、仕事やプライベートでの人間関係を深める場として重要視されることが多いですから、一緒に過ごす人の快適さを優先するのがマナーの一つなのです。

たとえば、相手に「飲み物は足りていますか？」と尋ねるだけでも、自分が相手を気遣っていることが伝わりやすいですし、それがきっかけで会話が弾むこともあります。こうしたちょっとした行動が、場をスムーズに盛り上げるだけでなく、相手との距離感を縮める良い方法だと感じます。日本の飲み会文化は、単なるお酒の場というだけでなく、気遣いや配慮を通じて関係を深めるための大切な機会です。こうした文化が今でも根強く受け継がれているのは、日本の魅力の一つだと思います。

■お箸の使い方を教えて。

お箸は、日本をはじめとするアジアの国々で広く使われている食事の道具です。正しい持ち方を身につけると、繊細な料理でも器用につまむことができるのが魅力だと思います。基本的には、上の箸と下の箸を分けて意識するとわかりやすいです。下の箸は親指の付け根と薬指の第一関節あたりで支えて動かさず、上の箸だけを人差し指と中指を使って動かすことで、食べ物をつまんだりはさんだりします。最初は難しく感じるかもしれませんが、練習を続けるうちに、さまざまな形状や大きさの食べ物を上手につまめるようになります。そして、日本では箸の使い方だけでなく、マナーも大切です。たとえば、料理を箸で刺したり、茶わんに箸を突き立てたりするのはマナー違反です。また、箸から箸へ料理を渡すのも避けなければならない行為です。こうしたマナーは、日本特有の礼儀作法の一部で、周囲の人に不快な思いをさせないための配慮が込められているのだと思います。とはいえ、実は日本人の中にも正しく箸を使えない人がいるのも事実です。忙しい日常や幼少期の練習不足など、理由はさまざまですが、正しい持ち方ができなくても気にしない人もいます。それでも、箸の使い方を見直したり練習を重ねたりすることで、食事がより快適で美しくなるのは確かです。箸の正しい使い方を習得することは、ただのスキル以上に、日本の文化やマナーを深く理解するきっかけにもなると思います。

■こたつって何？

こたつは、日本の冬には欠かせない存在です。テーブルの下にヒーターがついていて、その上に掛け布団をかけて暖かい空気を閉じ込める構造は、とても理にかなっていると思います。昔は炭や電熱器を使ったタイプもあったと聞きますが、どの時代でも日本の冬の風物詩として親しまれてきたのがこたつの魅力です。特に日本の住宅では、欧米のようなセントラルヒーティングが普及していないことが多いので、特定の場所を集中的に暖めるといふ考え方が定着しているのでしょう。それが、こたつのような省エネで効率的な暖房器具の普及につながったのだと思います。私も冬になるとこたつで足を伸ばしながらテレビを見たり、家族とおしゃべりを楽しんだりする時間がとても好きです。一度こたつに入ると、つい抜け出せなくなるというのも、よく分かりますね。

また、こたつはただ暖を取るだけでなく、家族や友人とのコミュニケーションの場としても大切な役割を果たしていると感じます。こたつに入って一緒に食事をしたり、話したりする時間は、特に寒い冬に心を温めてくれるものです。こうした日本ならではの生活文化は、多くの人にとって冬の楽しみの一つになっているのではないのでしょうか。

■日本人はなぜラッシュアワーの電車に乗って通勤するの？

日本の大都市では、朝晩のラッシュアワーに満員電車が発生するのは、本当に日常的な光景です。その主な理由は、やはり都市部への人口や企業の集中にあると思います。特に東京や大阪のような大都市では、広い範囲から多くの人々が電車を利用して中心部に集まるため、特定の時間帯に乗客が一気に増えることとなります。

また、日本の電車が時刻表どおりにほぼ正確に運行するという特徴も、ラッシュアワーの混雑を支えている一因だと思います。遅延が少なく、安心して利用できるからこそ、多くの人々が通勤・通学手段として電車を選ぶのです。

さらに、多くの企業や学校が朝早くから始まる「固定スケジュール」を採用していることも、大きな要因の一つです。みんなが決まった時間に出社や登校をするため、必然的に同じ時間帯に人が集中します。車通勤という選択肢もありますが、大都市では駐車場代が高かったり、道路が渋滞しやすかったりするため、公共交通機関を利用する人が多くなるのは納得できます。

こうした都市構造や社会の仕組み、企業文化が重なり合って、満員電車やラッシュアワーの光景が日本の都市生活の「当たり前」になっているのだと思います。私も電車通勤をしていた頃は、混雑の大変さを実感していましたが、それでも正確に運行してくれる電車の存在はとてもありがたかったです。

■ 1年に取れる休暇はどのくらい？

日本の労働法では、1年に最低10日間の有給休暇が認められています。しかし、実際には業種や会社によって有給休暇の取りやすさに差があるのも事実です。たとえば、大企業では比較的有給休暇を取りやすく、1年に10日以上の有給休暇を取得することが一般的だと聞きます。

一方で、中小企業や忙しい職場では、なかなか休暇を取りにくい環境があることもあります。日本では、ゴールデンウィークや夏休み、年末年始といった長期休暇が定着していますし、企業によっては祝日やお盆に特別な休暇が加わる場合もあります。これらを合わせると、年間で平均120日以上休暇を取ることが可能だと言われていますが、実際にその日数をしっかり休めている人はどれくらいいるのか気になりますね。私自身も働いていると、業務の忙しさや同僚への配慮から、休暇を取るタイミングが難しいと感じることがあります。

特に、責任あるポジションについている場合や、プロジェクトが佳境を迎えているときは、有給休暇を取るのに遠慮してしまうこともあります。ただ、法律で認められた権利である以上、しっかりと休みを取ることが自分の健康や仕事のパフォーマンスにとっても重要だと思います。日本の労働文化では、まだ休むことに対する罪悪感が根強く残っていますが、最近ではワークライフバランスを重視する風潮が少しずつ広がっているように感じます。有給休暇を上手に活用して、自分の時間や家族との時間を大切にすることが、これからの働き方にとってますます重要になるでしょう。

「外国人から日本についてよく聞かれる250の質問（日常編）」はいかがでしたか。コメント欄から感想をみんなに教えてください。それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

